

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈著書紹介〉 木部暢子
著『じゃっで方言なおもしとか』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木部, 暢子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000767

木部 暢子 著

『じゃつで方言なおもしろか』

そうだったんだ！日本語

2013年12月 岩波書店 B6判 214ページ 1,700円＋税



木部 暢子

1. この本の目的

この本のタイトル「じゃつで方言なおもしろか」は、「だから方言はおもしろい」という意味の鹿児島方言です。タイトルが示すように、方言のおもしろさをできるだけ多くの人に伝えたい、というのがこの本の目的です。

私が方言のフィールド調査を始めたのは、1980年頃からです。その頃、私は福岡市に住んでいました。フィールド調査の対象も、北九州や福岡、島原といった北部九州が中心でした。その後、私は鹿児島大学に赴任することになり、それをきっかけとして、鹿児島方言のフィールド調査を行うようになりました。

ひとくちに鹿児島方言といっても、その中身は多様です。特に、鹿児島県は離島を多く抱えていますので、島のことばまで入れるとじつにバラエティーに富んでいます。地域ごとに、また島ごとに違う方言に最初はとまどいましたが、そのうちに、なぜこのように多様になったのかを考えるのが楽しくなりました。

2010年に国立国語研究所へ異動してからは、奄美、沖縄が私のフィールド調査の中心となりました。奄美・沖縄のことばは、本土の方言に比べて、さらに多様です。ここでも私は、多様性という魅力にすっかり取り憑かれてしまいました。

ことばが多様であるということは、とても重要なことです。なぜなら、多様性の中に、日本語がどういう言語であるか、また、ことばの一般特性がどのようなものであるかのヒントが隠されているからです。標準日本語だけ見ていたのでは分からないことがたくさんある、それを伝えたいと思って書いたのがこの本です。

2. この本の構成

この本は、全国の読者を想定したものです。しかし、本の中で全国の方言を扱ったわけではありません。主に取り上げたのは、九州方言、奄美方言、沖縄方言と岩手県のケセン語です。その理由は、私のフィールド調査の範囲が九州、奄美、沖縄であること、ケセン語に関しては、山浦玄嗣^{はるつぐ}氏のたくさんのご著書があることにあります。しかし、全国のかたがたにとっては、これらの方言はほとんど馴染みがないのではないかと思います。そのようなかたがたに、その方言の特徴と方言の多様性の価値をどう伝えるか、それがこの本で最も苦労した点です。

その解決策として考えたのが、題材としては九州方言や奄美方言、沖縄方言、ケセン語を取り上げつつも、内容としてはどの方言、どの言語にも通じるような事柄を扱うということでした。そのために設けたのが次の5つの章です。

第1章 質問でも尻下がり？

- 1 いまのは質問？ 2 東京方言の質問文 3 鹿児島方言の質問文
- 4 そういえば北九州方言も…… 5 福岡方言の質問文 6 質問文のタイプ分け

第2章 親族を表すことば

- 1 「ちゃん」はどこへ行った？ 2 喜界島方言のお母さんとお父さん
- 3 与那国方言のお兄さんとお姉さん 4 奄美・沖縄方言の弟と妹
- 5 東日本方言の弟と妹

第3章 さかさまことば

- 1 あいさつことば 2 「はい」と「いいえ」 3 入間の「さかことば」

第4章 「わたし」と「あなた」の間

- 1 「私たち」は誰を指すか 2 「行く」と「来る」 3 「やる」と「くれる」

第5章 方言の将来

- 1 方言が消えていく 2 方言を守るために 3 方言の将来

第1章から第4章までは、ことばの構造に関する問題を扱っています。たとえば、人に質問するときは文末を上げると一般に言われていますが、九州方言やケセン語では、そうなっていません。では、他の方言ではどうなのか、みなさんも調べてみてください（第1章）、といった調子です。

第5章では、2009年2月にユネスコが発表した“Atlas of the World's Languages in Danger”（世界消滅危機言語地図）を受けて、方言が消えていくとはどういうことか、なぜ方言を守らなければならないのか（守る必要があるのかも含めて）について考えました。

この本を読んでくださったかた、お一人お一人がことばの多様性とその意義について考え、そのような多様なことばが消滅していくという現状を見つめ直してくださることを願っています。

木部 暢子 (きべ・のぶこ)

国立国語研究所副所長，時空間変異研究系長。博士（文学）（九州大学）。鹿児島大学名誉教授。2010年4月より現職。主な著書・論文：『鹿児島県のことば』（共著，明治書院，1997），『西南部九州二型アクセントの研究』（勉誠出版，2000），『方言の形成』（共著，岩波書店，2008），『日本語アクセント入門』（共著，三省堂，2012），『方言学入門』（共著，三省堂，2013）。

受賞：新村出財団研究助成（新村出財団，1990）。

社会活動：日本語学会理事，日本音声学会理事，日本方言研究会世話人，日本学術会議連携会員。